平成 25 年度第 6 回企業向け人権啓発講座（第 20 回障害のある市民の雇用フォーラム）

第 3 分科会

企業・支援学校卒業生・在校生から「就労について」

発表(1)就労に向けた取組の紹介

京都市立鳴滝総合支援学校 生活産業科 3年 藤谷 真緒

発表(2)企業・支援学校卒業生から「就労について」

日本新薬株式会社人事部人事課 専任課長・産業カウンセラー 山元 孝子

日本新薬株式会社人事部人事課 石田 沙雪（白河総合支援学校卒業生）

－ 発表（1）講演録 －

こんにちは。私は、鳴滝総合支援学校生活産業科3年藤谷真緒といたします。私からは、鳴滝総合支援学校での就労に向けた取組について紹介します。京都市立鳴滝総合支援学校は宇多野病院に隣接しています。病院に入院している児童生徒が学ぶ普通科と私たち生活産業科の生徒と一緒に勉強しています。また、訪問教育や、市立病院分教室など、京都市内の病院に入院している小中学生の所へ先生が出掛けていき勉強をしています。鳴滝総合支援学校では、普通科と生活産業科と一緒に学んでいます。普通の授業は別々ですが、児童生徒会活動や部活動、学校祭などの行事は協力して取り組んでいます。生活産業科では国語・数学などの共通教科と、メンテナンス・クリーニング・福祉介護の専門教科、企業での職場実習があります。そのほかに生徒会活動や部活動があります。それぞれの専門教科では、働くための基礎や基本を身に着けます。例えば、遅刻や欠席をしない。大きな声で挨拶をする。集中して仕事に取り組む。分からないことは必ず確認するなど、どんな職業にも必要な学習です。私の所属しているメンテナンスでは、学校内の清掃のほかに壬生サテライト施設を使つての学習をしています。特別非常勤講師の先生からも実技指導を受けています。色々な機械を安全に使うことも大事な学習です。今年からホテル仕様の部屋が出来、ベッドメイクの練習に取り組んでいるところです。学校の近くにある宇多野ユースホステルや、右京中央図書館の清掃にも出掛けています。お客様や利用者の方に気を付けながら時間内に仕上げることを目指します。クリーニングでは学校の中に鳴滝クリーニングというお店があり、お客様から商品を預かります。間違いがないように、丁寧に確実に注文に応じた仕上げをします。福祉介護ではケアサービスの提供に必要な心構え、身だしなみやコミュニケーションの学習、自立生活に向けての学習や演習に取り組んでいます。学校生活の中では色々な資格を取ることに挑戦しています。目標に向かって友達と一緒に頑張ることが自信につながります。クリーニング師の国家資格は今年も4

人の2年生が挑戦しました。1年生から職場実習にもたくさん行きました。初めての实習では緊張して大きな声が出せず、作業のスピードもなかなか上がりませんでした。でも実習を重ねるにつれて、仕事のペースの作り方や協力して仕事をする事、与えられた仕事をやり切ることなど色々なことを学んでいきました。私は3年生になって卒業後の就労先を考えるようになり、メンテナンスの会社を中心に幾つかの会社に実習に行きました。初めての仕事は不安なこともあります、鳴滝で学んできたことを自信にして自分に合った仕事を見付けたいと思っています。

最後に私の将来の夢は、学校生活の中で学んだ様々なことをいかして、自分の良さをいかして仕事に就き、お給料を貯めて、いつかは一人暮らしをすることです。そのためにも学校生活や家庭生活、職場での実習などで色々なことに挑戦し、自立するための力を付けていきたいと思っています。これで私の話を終わります。ありがとうございました。

—発表(2)講演録(日本新薬株式会社 石田)—

御紹介いただきました石田沙雪です。よろしくお願ひします。私は平成24年3月に白河総合支援学校の産業総合科情報印刷を卒業し、4月に日本新薬株式会社に入社しました。あっという間に1年半が過ぎました。今から、仕事を通じて学んだことや感じたことなどを発表させていただきます。

現在、私は人事部人事課に所属しており、主にデータ入力などの事務作業を行っています。その中でもとても重要と感じている仕事は、労働者名簿の入力業務です。労働者名簿は日本新薬全社員分があり、データを入力したり紙ベースに手書きをしたりします。また、作成した労働者名簿を全国の事業所へ発送します。労働者名簿には、従業員の名前、入社日、退職日、社内職歴などの個人情報に記載されているので、作成はとても重要な仕事です。間違いのないよう丁寧にしなければなりません。人事部には人事課のほかに、採用研修課、労務・労政課、社員課の4つの課があり、ほかの課の仕事のお手伝いもしています。採用研修課では、入社応募者の書類整理、内定者の皆さんへ書類やパンフレットの発送、会社説明会に来社される学生の皆さんの名札作成を行っています。労務・労政課では年末調整の書類の処理を行っています。全社員分の書類を社員番号順に並べ替えたりファイリングしたりしています。社員課では、今までの退職者の皆さんに書類やパンフレットの発送を行っています。多くの退職者がおられるので結構大変なお仕事です。人事部全体での郵便物の集荷・配布や、来客へのお茶出し、シュレツダ一作業なども行っています。白河の実習生の指導も行っています。今年は6月と9月に3年生と、10月には2年生と一緒に色々な作業を行いました。研究所や広報部の業務のお手伝いにも行っています。研究所では研究所の皆さんの衣類や、研究所内で使用するタオルなどの洗濯や仕分けなどのリネン作業を、同期入社、鳴滝総合支援学校を卒業した方と一緒に作業をしています。また、安全監理部で調査票のコピー作業を行っています。白黒コピーやカラーコピーがあったり大きさが違ったりするため、コ

ピー機の設定を間違いのないように、1枚1枚確認をしながら進めなければなりません。広報部では、子ども文学賞の事務局業務を行っています。毎年1月から2月にかけて、子ども文学賞の絵本と絵画の応募作品が集まりますので、応募作品のデータ集計をし、処理を行っています。その後、5月頃には、応募して下さった方々に絵画の返却作業を行っています。

今、仕事をするうえで私が大切にしているのは、スピードを意識することです。仕事に慣れるまでは間違いのないように丁寧にゆっくりとやっていたのですが、繰り返し経験することで間違いも少なくなり、徐々に慣れることができましたので、次はスピードを意識するようにと言われました。色々な方々からたくさんの仕事を依頼されるので、一つ一つの仕事を丁寧に、手早く行うことを心掛けています。これからも正確さとスピードを意識して、色々な仕事に挑戦したいと思います。

今後も苦勞しなければいけないこともあると思いますが、人事部の皆さんと協力して仕事を進めていくことが大事だと思っています。これからも続けていけるように自信を持って頑張ります。以上で私の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

－発表（2）講演録（日本新薬株式会社 山元）－

○山元 皆さん、こんにちは。日本新薬株式会社人事部人事課の山元孝子です。本日はこのような場を設けていただきましてどうもありがとうございます。日本新薬の障害者雇用についてお話しします。

まず日本新薬株式会社の概要を説明します。場所は京都市南区の西大路駅から徒歩3分ぐらいの所にあります。創業は大正8年で、もうすぐ創立95周年になります。資本金は52億円、従業員数は平成25年の3月末現在で1806人、平成24年度の売上高は約699億円です。

日本新薬株式会社では、主には医療用医薬品を販売しています。皆様にとっては、薬局等で御覧になるような一般の医薬品ではなく、病院で医者に処方していただく医療用医薬品を取り扱っています。ほかには一部ですが、いわゆる機能食品、例えば、色々なパン、お惣菜、それらの保存料などを製造及び販売しています。

次に、経営理念・経営方針について簡単にお話しします。日本新薬が目指す姿は、ヘルスケア分野で存在意義のある会社です。その目指す姿を実現するため、経営理念に「人々の健康と豊かな生活作りに貢献する」ことを信条として掲げています。顧客の皆様には、病気でお困りの患者様を最優先に考えて、何か一つでも優れている医薬品、顧客ニーズを満たす質の高い機能食品を製造し、提供するようにしています。また、社外においては、法令順守はもちろんのこと、社会的責任を絶えず意識して、高い倫理観を持って行動します。それらを踏まえ、社員が目標の達成に向けて前向きにチャレンジをし、業務の推進を通じて成長することにより、ヘルスケア分野において、社会になくてはならない存在意義のある会社を目指しています。

この考えに沿って、継続的に事業活動を行うことをCSRの基本方針として広く社会に貢献していきたいということで、CSRの取組の1つとして行っている子ども文学賞についてのお話をさせていただきます。

皆様のお手元に、「第6回日本新薬子ども文学賞」をお配りしています。後ろにはポスターと第1回目から第5回目までの絵本を置いています。この日本新薬子ども文学賞は、全体会でも分科会でも石田さんに発表していただきましたとおり、石田さんが事務局として携わってもらってるお仕事です。この日本新薬子ども文学賞がどんなものかと言いますと、絵本を通じて、未来を担う子どもたちの夢を彩り、健やかな心の成長の貢献を目的としていて、創立90周年を記念して創設しました。

第1回目の大賞は「おんぶ おんぶ」という絵本です。その後、第2回目は「とびだせしろくん」という題のクレヨンたちのお話でした。3回目はゾウが主役になった「ふしぎな水色のゾウ」というお話です。4回目が「こぐまとミカヅキ」で、今年の第5回目は「あめくんデビュー」という題の主人公が雨を降らせるあめくんの話です。毎年絵と物語とを別々に応募をしていますので、絵もそれぞれ毎回違うし、特に5回目の「あめくんデビュー」は本の雰囲気もこれまでとは全く違います。

では、石田さんが事務局としてどんな仕事をしているかについてお話しします。応募によりたくさんの絵と物語が会社に送られてきます。石田さんは、それを一つ一つ開封して中身を確認して、名簿をデータベースで作成しています。また、絵は返却をしてほしいと希望される方がおられますので、受賞作が決まった後に、絵を返却するという仕事もしています。石田さんも含め私たちは、この絵本が1人でもたくさん子どもたちに、夢と希望、感動をお届けできることを心から願っています。

なお、この本はどうやったらもらえるのかと言いますと、実はこの本は市販はされていません。日本新薬で3万部を作成しており、「きらきら未来子ども募金」に500円以上を募金していただくと、もれなくこの絵本がお手元に届くというシステムになっています。石田さんにはそのシステムの一環を担っていただいております。具体的には募金をしていただいた方に絵本を送る作業をしていただいております。

次に、我が社の障害者雇用の状況についてお話しします。レジユメは平成25年10月末のデータです。雇用率は2.1パーセントです。障害者数の全社における人数は27名です。その内訳は知的障害者が8名、その中で重度の方が2名います。身体障害者は18名、そのうち重度の方が9名です。あと精神障害者が1名。この方は平成25年10月に採用しました。ハローワーク、各行政機関の皆様にご協力をお願いしたおかげで採用が実現しました。

雇用率の推移については、実は平成18年までは、法定雇用率の1.8パーセントに達していませんでした。平成19年に達したのですが、総合支援学校と企業等が協働で取り組んでおられるデュアルシステムのおかげと思っています。デュアルシステムを利用して知的障害のある方の雇用を開始し、雇用率が1.96パーセントになり、現在に至ります。

雇用の現状についてお話しします。平成19年から採用した知的障害のある方々の出身校については、白河総合支援学校が5名、また、弊社は小田原に製造工場があることから、小田原養護学校の卒業生が2名です。あと、鳴滝総合支援学校の卒業生が1名です。先ほどの写真の中でリネン作業をされている写真がありましたが、そこで登場している方が、鳴滝総合支援学校から採用させていただいた方です。つまり、最初に雇用した知的障害のある方が平成19年の採用ですので、勤続年数も10年に満たない方々ばかりです。

実際にその方々がどんな仕事をしているかと言いますと、まず本社がある京都地区では、主な仕事は一般事務です。配属先は人事部・総務部・広報部です。総務部は、具体的に言うとメールセンターです。会社からの郵便物の集配や届いた郵便物の色々な部門への振分け作業をしています。広報部は、子ども文学賞の業務を一手に引き受けています。研究所では、研究者の白衣や靴下、研究所の中で使うタオルなど色々な洗濯物がたくさん出てきます。その洗濯をしていただいています。また、保存すべき資料がたくさんありますので、資料のコピーと保存の仕事の手伝いがあります。あと山科に植物資料館があり、そちらの植物の管理をしています。小田原工場では、主に物流管理でフォークリフトの運転や廃棄物を回収して構内美化の補助作業をやっていただいています。

次に、日本新薬として、障害者雇用をいったいどのように考えているのかについてお話しします。日本新薬は、障害のある人を積極的に雇用することは、社会に対して企業が果たすべき役割の1つであると認識しています。平成19年から知的障害のある方を総合支援学校と連携して、実習を行いながら雇用を進めています。健常者と同じような職場で働ける環境を整えることを考えていますので、障害者職業生活相談員の資格の取得を職員に促し、資格を持った職員を配置することを、それぞれの職場で進めています。障害のある方も働きやすい職場環境を推進していきたいと思っています。

障害のある方を採用するに当たり、新たな仕事を創ることはしておらず、今の日本新薬の中にある仕事を色々分類しまして、その中でこれを障害のある方にさせていただくということを考えています。つまり、当然、それをこなせるスキルも必要になります。例えば、一般事務になりますとパソコン作業が主になりますので、エクセルやワード、特にエクセルのデータ入力を朝から1日中していただく作業もありますので、根気強くやっていただけるスキルが求められます。そこに、実習の中でそういった特性があるかどうかを一つ一つ確かめていくことにしています。

ほかには、社会人としての基本的なスキルが身に着いているかも見ます。規則正しい生活習慣ができているか、自分の体調について自己管理ができているかどうか、例えば、お薬の服用が必要な方でしたらそれを守っているか等を確認します。通勤では、公共交通機関を使って1人で会社に来られるか、また我が社の勤務時間は9時に始まって5時半に終わりますので、毎日朝9時に来られて5時半までお仕事できるかを確認します。当然、挨拶、報告、連絡、そして分からないことは分からないと言える、教

えてくださいと言えるというような基本的な所ができるかどうかを採用の際に見ています。それについては、支援学校様と協力して実習を行っており、学校から情報提供など、色々協力をしていただいていますので、本当に助かっています。

採用後は、採用した方をどのようにして戦力に磨き上げていくかという視点を持って取り組んでいます。それは私自身が、周りの人の色々な助けをもらって、色々なことを経験させていただいて、今のこの場があると思っていますので、個人個人能力の差はあり、時間が必要な面もあると思いますが、そこは障害の有無に関係なくみんな一緒だという風に考えています。色々な経験を積み、そこから得た結果を大事にして、次にいかしていきたいと思っています。

指導においては、一人一人の能力に合わせた指導がすごく大事だと思っています。例えば、知的障害のある方は、単純で根気のいる繰り返しの作業が向いているとよく聞くのですが、一人一人で本当に向き不向きが違います。実習を繰り返していくとその点がより詳しく分かりますので、そういう先入観を持たずに一人一人に向き合って、その方一人一人の能力に合わせた指導を心掛けています。

次に、業務手順は細かく丁寧に作らないといけないと思っています。例えば、「あれ」、「これ」といった指示は理解しにくかったり、「ここのゴミを片付けておいてください」と言ったとき、私としては、部屋全部のゴミ箱に入っているゴミの片付けをイメージしてお願いしたつもりですが、私が指を差したここのゴミ箱だけを片付けられました。そういうときは、「人事部の部屋の中にある全てのゴミ箱のゴミを捨ててください」と、明快に分かりやすく具体的に指示をすることが大事であると思いました。

最後に、人間はお互いに会話をすることで色々なことが分かってきますので、ゆっくりと話を聴き、彼女や彼らの成長を見守っていくことが大事だと思っています。社会人として真っ白な状態で会社に入ってきてますから、たくさんの色々なことを吸収してくれます。そこが楽しみです。

本日、入社5年目の方が表彰されました。これから10年・20年・30年と彼らのキャリア形成について考えていきたいと思っています。

以上で発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

○司会 山元さん、ありがとうございました。本日この分科会に御参加の企業の皆様の自己紹介を頂戴し、その後、発表していただきました3名に対する御質問等をお聞かせいただき、話を進めていけたらと思います。

<参加者自己紹介>

○司会 本日は、色々な企業様に御参加いただいています。日本新薬株式会社様をはじめ、本日御参加

のA社様にはたくさんの卒業生がお世話になっています。また、仕事の部分だけではなく、生活面も考慮されて取り組んでおられます。今、自己紹介の中でまだ雇用や実習には至っていないとの企業様もおられましたので、障害者雇用や実習の受入れの経験のある企業様に、始めの一步を踏み出されたときのことについて、お話いただければと思いますが、まず日本新薬株式会社山元さんにお話しいただきたいと思います。

(日本新薬株式会社 山元)

○ まずは私たちが日頃やっている仕事を見直してみようという所から始まります。私たちがやっている人事の仕事も、例えば書類を作成して、それをプリントアウトしてファイリングするという一連の作業があります。それを細かく見返したときに、重要なもの、重要でないもの、急ぐもの、急がないものなど、それらをマトリクスみたいな形に分けます。すると、重要ではないけど急ぐものとか重要なものではあるが急がないものとか、色々見えてきます。例えば、ファイリングは重要です。きちんと書類をファイリングして決まった場所にしまうという仕事は、すごく重要なことですが、今すぐしなくても構わないので、机の横に置いていたりしないでしょうか。そして、だんだん書類がたまっていって、半年前に作ったあの書類はどこにあるか探した経験はあるのではないのでしょうか。そういうことを考えて、色々仕事を切り出して、それらの仕事をしていただく人を採用したら知的障害のある方でした。つまり、仕事を創ろうとしたのではなくて、自分たちの仕事を見直したときに、任せたい仕事があるかという所を探していただければと思います。

○司会 ありがとうございます。それでは、A社様もお話をお願いしたいと思います。

(A社)

○ 我が社では、就労前実習を約2週間させていただきまして、そこから採用実習を1箇月間やってから採用試験を通れば就労となります。実習をかなり長い期間やるので、4月から働き始めるときには、ほとんど作業ができている状態です。最初の実習では、リサイクルできるゴミ、できないゴミの選別ができるように、見本を見せながら実習初日の1時間を掛けて全て説明します。説明の後に実際に選別の練習をしてもらって、その後にラインのコンベアーの前に立って作業をしてもらいます。ただ、初めてコンベアーの前に立つと、全てのゴミが流れてくるので作業が止まることはあります。ですから、相談員がずっと付き添って、「これはどうするんやった、これは何て言ったっけ、どういう風に説明したっけ」という風に、本人が記憶を探りながら体で覚えてもらえるように取り組んでいます。ほかに、生活面では、作業後の入浴や食事のマナーは、経験のある障害のある従業員に指導を任せているときが多い

です。

○司会 ありがとうございます。次にB社様には、今ちょうど実習を受け入れていただいています。初めて実習を受け入れていただいた社内の取組などについてお話いただきたいと思います。

(B社)

○ 今回2週間の実習に来ていただいています。初めてですので、生徒さんがこういう仕事に向いてるのかどうかということに不安がありますが、実習の中で仕事を理解していただき、お互いに判断していけばと思っています。現場は機械もあって事故が起こる可能性もある所ですので、そういった危険性も含めて理解していただき、けがのないようにしていきたいと思います。

○司会 ありがとうございます。お話のとおり職種によって、求められる能力が異なりますので、マッチングがとても大事だと思います。私たち支援学校も、会社様がどういうお仕事をさせたいと思っていただいているかということ、十分に事前に打合せをさせてもらって、マッチングできるかなと思う生徒さんを実習にお願いするようにしています。

それでは、今幾つかお話を聞いていただいて、参加されています企業の皆様から御意見をもらいたいと思います。

(C社)

○ 私は入社して約11年たちます。一度中学生の発達障害の方が職場体験で来られましたが、長く続かなかったということがありました。実習を受け入れるに当たっては、私たちや周りの人も障害について知らないといけないことがたくさんあると思いました。

○司会 ありがとうございます。本日は、障害のある方の就業等を支援されている社会福祉法人の方も参加されていますので、例えば、会社ではどんなことでつまづくことが多いかとか、相談を受けたケースでこういう配慮を周りがすれば、仕事が続いたという事例をたくさん見ておられるかと思っていますので、その辺の話をいただきたいと思います。

(D社会福祉法人)

○ 仕事を長く続けるということは、私たちにとっても課題です。うまく行かなかったケースを挙げますと、周りの社員の方との人間関係でつまづくという方がいらっしゃるように感じられます。仕事の仕

方に関しては、どのように配慮すれば本人がやりやすいかということ、例えば、指示の仕方と言うと、明確に指示を出すなど作業面での配慮は企業様にとっても分かりやすい部分もあると思います。しかし、人間関係は、障害のあるなしに関わりなく、周りの人と良い人間関係を築いていくのは難しい部分もあると思いますので、具体的に人間関係の構築に当たって、課題となっていることを少しずつ探っていくことやストレスの発散方法、余暇の充実を勧めるというような対策があると思っています。

また、センターでは定着支援の一つで色々とセミナーを開催しています。先日開催したセミナーは、日本茶の入れ方をみんなで学びましょうという内容でした。宇治茶の専門のインストラクターの方をお呼びしまして、おいしいお茶の入れ方をみんなで学ぶというものです。お茶はリラックス効果もありますし、そこで実際に仕事をしている障害のある方同士の交流も深まりますので、仕事以外の面での支援も重要であると感じています。

○司会 ありがとうございます。次に、本日は保護者のお立場で御参加をいただいている方もいらっしゃいますので、御意見を伺いたいと思います。

(E保護者)

○ 今、娘が会社で働いていますが、支援学校の先生が色々な面で保護者である私たちと密にコミュニケーションを取ってくださいました。私は仕事をしているので、日中は子どもの様子を十分に見られないという状況をフォローしていただきました。一生懸命に就職活動も支援してくださって、御縁があって会社に就職することができました。勤め始めてから、いわゆる社会人としてのマナー、身のこなし方などが家の中でも全然変わってきたように感じています。会社に毎日通って、周りの皆様から御指導いただいて成長しているのだと日ごと感じており、本当に皆様に感謝しています。

○司会 ありがとうございます。今色々なお立場の方からお話を伺いましたが、ほかの方からも御質問や御意見を伺いたいと思います。

特に質問がないようでしたら、私から日本新薬株式会社の山元様にお尋ねしたいことがございます。

会社に就職した卒業生を見ると、色々な経験を積んで、本当に会社の中で成長させてもらっていることを実感させられるのですが、企業の立場から、在学中に身に着けておくといよいことについて仕事のスキルやそれ以外のことであれば聞かせていただきたいと思います。

(日本新薬株式会社 山元)

○ 石田さんが入社されて1年半は、あっという間に過ぎたという感覚があります。色々な経験ができ

ているのは、彼女のキャラクターもあると思います。それは、御家庭にあっても学校にあっても、まずは私が最初に採用のときに言ったように、最低限のマナーが身に着いているかというところではないでしょうか。基本として、挨拶ができること、会社に来ておはようと挨拶する、退社するときにさようなら、お疲れ様と気持ち良い挨拶ができることが大切です。人と人のコミュニケーションは挨拶から始まりますので、それは身に着けておくべきことであると思います。

逆に仕事のスキル面で言うと、例えば、パソコンの扱いは、会社に入ってから幾らでも私たちが教えますので、仕事のスキルの面は就業してから会社に任せていただければという風に思っています。

○司会 ありがとうございます。それでは、今働いている卒業生から、今後どんなことが目標をお持ちかを話していただきたいと思います。

(日本新薬株式会社 石田)

○ 私の今後の目標は、仕事に関してのスピードに目標を置いています。私は皆様から仕事をたくさん依頼されるので、一つ一つの仕事を丁寧に、そして手早くやることが大切だと思うので、これからは、スピードを意識して頑張っていきます。

○司会 はい、ありがとうございます。それではもう一人、Fさんはいかがでしょう。

(F 卒業生)

○ 私はすごい人見知りですが、職場の食堂にいると周りの人の視線なんかを気にして緊張していますが、頑張っていきたいと思います。

○司会 彼女は今、リネンのお仕事をしています。そこに聴覚障害の方がおられて、彼女との方が、筆談、簡単な手話やジェスチャーで、コミュニケーションを取りながら2人で仕事をしています。そのことは在学中の彼女を思い返してみると、本当に成長していると正直驚いています。今日のこの場にも彼女が自分の意志で参加したいと言ってきてくれたことも大きな成長と感じています。ですから、お仕事ももちろんですが、精神的な面が、社会人として成長してきていることが実感でき、本当にうれしく思っています。

それでは、最後になりますが、実習を重ねてこられた藤谷さんに、今の目標を話していただきたいと思います。

(鳴滝総合支援学校 3年 藤谷)

○ 将来は一人暮らしをしたいので、家事とか全部1人でできるようになりたいです。あと4箇月ちょっとで卒業なので、自分に合った仕事先を見付けたいです。以上です。

○司会 ありがとうございます。残りの時間が少なくなってきましたんですが、最後に御質問、御意見などはございませんか。

(G参加者)

○ 先ほどから人間関係のつまずきが、仕事を続けていくのに課題になっているという話がありましたが、障害のある方を受け入れられている企業において、障害のある方と一緒に仕事をした経験のない社員にどういう風に障害に対する理解を浸透させ、環境を整えているのかが気になりました。

○司会 御質問ありがとうございます。それでは、日本新薬様は、人事のお立場でどのように進めてこられたかをお話しいただきたいと思います。

(日本新薬株式会社 山元)

○ 非常に大事なポイントだと思います。私が今まで経験してきた中で仕組みとして整えたのは、最初の一、二年は人事の者と一緒に働き、私たちの下で仕事のスキルや対人関係を磨いていただきます。その間に、企業内インターンシップのようなことをやります。つまり、ほかの部門に行って色々な仕事をやらせてもらうわけです。すると、その人の仕事に関する適性も分かりますし、行った先の方との人間関係も構築できます。そういった形で色々な経験をしてもらって、適材適所の部門に行っていただくという仕組みを作って、実践しています。先ほどマッチングの話がありましたが、入社後に会社の中でもマッチングできるような仕組みを作っています。

ですから、社内には人事部・総務部・広報・研究所と色々な部門がありますので、人事部から会社内の他の部に異動する例はあります。

○司会 ありがとうございます。会社の人事や総務の方の御理解があるという事が大きいと思いますが、直接指導をしていただく現場の方の御理解があるということがとても大事なことです。ですから、人事・総務の方と現場の方々の双方の風通しの良い会社では、長続きしていることを実感しています。今日の5年表彰を受けていただいた会社様を見ると、本当に大事に育ててくださっていると思います。是非、今後も会社の中での組織的な理解を深めていただけたらありがたいなと思います。

今日は、色々なお立場の方から様々なお話を頂きました。学校としましても、まだまだ努力しなければならぬことが多々あります。子どもたちは、一人一人本当に素晴らしい可能性を持っていると思いますので、それをいかに引き出し伸ばしていくかということも大事ですし、また、苦手なこともこういう風に工夫すればできようになるということも学校生活の中で本人と一緒に見付けていき、色々な場でお伝えしていくことも必要であると思っています。今日お聞かせていただいたことをしっかり持ち帰って、今以上に皆様の力を結集して頑張って、障害のある人たちの就労に向けて頑張っていきたいと思えます。

(第3分科会 終了)